

## 第5回科研PJバックエンド問題研究会 社会的受容性分析フレームの開発について

### 1. 関連プロジェクトにおける社会的受容性

<日生PJにおける地域知と専門知>

- 環境（社会）イノベーションの社会的受容性を4要素（制度、市場、技術、地域）モデルから評価する
- 環境（社会）イノベーションの社会的受容過程において地域知と専門知の統合が見られる（豊岡、佐渡）。地域の協働ガバナンス（リーダーと協議の場）が機能することが社会的受容につながる。
- 地域知は、受容する地域社会内に存在する。専門知は、受容する地域社会とは独立し、外部からもたらされる。

<科研PJにおける社会的受容性と欠如モデル・文脈モデル>

- 高レベル放射性廃棄物（HLW）処理・処分施設の社会的受容性を技術・制度・市場・地域の4要素から定義し、欠如モデルの限界と、文脈モデルの具体的な適用手法について考察する。
- 欠如モデル（専門知の欠如が反対〔丁寧に専門知を説明すれば賛成〕の要因と考える）
- 文脈モデル（地域知に沿った文脈で、専門知を評価し受容する〔専門知に懐疑的で拒否する〕）

### 2. 社会的受容性の段階分けと分析フレームの構成要素

#### (1) 間接的関与レベル

推進派議員が多数派（代議制）、推進派の首長を選出

#### (2) 意思表示レベル

自身の判断でYesと言う（直接民主主義、意識変化）

#### (3) 行動変革レベル

受容することで、自身の行動も変わる（行動変革）

丸山・西城戸・本巢（2015）

許容（受動&肯定）

|

積極的支援（能動&肯定）

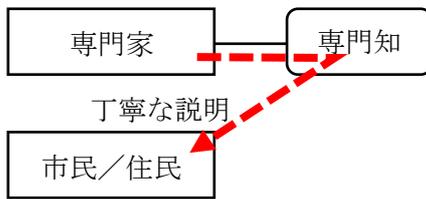
※欠如モデル／文脈モデルとは別の次元（推進派の首長を選出するのは文脈モデル？）

- 原発や風力発電に関する受容の議論は、(1)や(2)レベルの受容（受け身の受容性）として考えられてきたのではないか
- 丸山・西城戸・本巢（2015）は、風力発電について、能動的な「積極的支援」を得る必要性を指摘している（地域の主体がそれぞれ利益を得られる仕組み〔＝オーナーシップ〕を重視している）
- 原発においても、住民は避難計画を頭に入れ、事故発生時には行動変革が要求される
- (1)や(2)レベルの受容性を前提とした、欠如モデルや文脈モデルによる分析ではなく、(3)レベルの受容性を対象とした分析フレームが、日生PJと科研基盤Bに共通に必要なである。

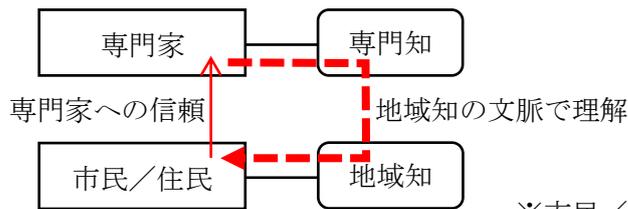
社会的受容性の4要素（制度、市場、技術、地域）  
専門知（科学技術／専門家）と地域知（市民／住民）  
欠如モデル（専門知の欠如）と文脈モデル（地域知に沿った文脈）

### 3. 分析フレームの設定

#### (1) 欠如モデル



#### (2) 文脈モデル

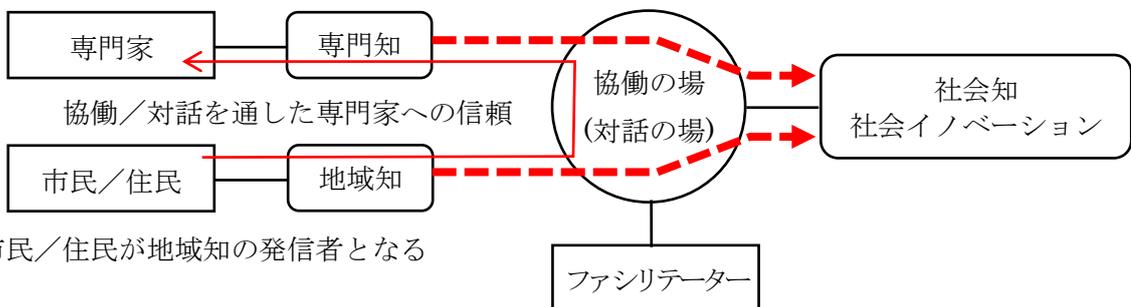


※市民/住民は情報の受け手である

#### (3) 協働モデル

科学者（専門知）と地域（地域知）が協働して新たな解決策（社会知/社会イノベーション）を生み出す

共進化（八木 2009）、共生成（平川 2010）、市民参加モデル（藤垣 2008）



※市民/住民が地域知の発信者となる

日生PJ「(地域の) 協働ガバナンス」モデルとの共通性。地域のリーダーは、ファシリテーターの役割も担っていたのではないかと？

### 4. 協働モデルの課題(1)：専門知の対極に何を置くか

<地域知>

地域住民の知る地域の生き物、自然環境、社会環境、変化や課題の発見能力・気づき（地域住民が一番詳しい）

<素人の知識・個人的経験>

自身が直面した医療や介護等の個別ケース

<科学技術への不信>

専門家や科学技術への不信、不確実性

専門家集団や企業内部のヒューマンエラーへの懸念

<集団としての素人の知識/素人の専門性モデル（藤垣 2008）>

ローカルノレッジ

## 5. 協働モデルの課題(2)：協働の場が有効に機能するための条件

<日生PJ>

地域の協働ガバナンスは、リーダーと協議の場の存在により機能する  
豊岡は地域の側が設定、佐渡は上から？

<アジェンダセッティング>

専門家が設定して良いのか。核燃サイクルの継続／ガラス固化体の存在を前提としてアジェンダがセットされている

<先行研究>

対話フォーラム（八木 2009）、サイエンスカフェ／サイエンスショップ（平川 2010）、コンセンサス会議（藤垣 2008） →まだ不十分

## 6. 分析への応用例

【頭の体操】自動運転自動車の社会的受容性（特定地域で一般車と道路を共有して、解禁される場合・・・一般車のドライバーの行動変革が必須）

	専門知	地域知	社会知／社会イノベーション
制度	旧来の法制度、交通事故裁判での判例	地域の道路事情、交通事情や運転マナー、文化	説明や手続き 損害保険の適用範囲
市場	自動車の価格、保険の掛け金	見通しの悪い地点や事故多発地点	刑事・民事責任の所在 (新たな判例)
技術	人間が運転する車との類似性、安全性や事故率	(制度・市場・技術に分割できない項目を含む)	地域ごとの運用ルール等

<課題>

「核燃サイクルの社会的合意」等では、立地地域限定の「地域知」のみでは、受容されない？

地域を限定しない「素人知／市民知」も位置付く

→地域知をどう読み取るか、地域の内と外の境界設定

参考文献

<分析フレームの設定>

藤垣裕子・廣野喜幸（2008）科学コミュニケーション論，東京大学出版会

八木絵香（2009）対話の場をデザインする：科学技術と社会のあいだをつなぐということ，大阪大学出版会

平川秀幸（2010）科学は誰のものか：社会の側から問い直す(生活人新書 328)，日本放送出版協会

<専門知の対極に何を置くか、素人の専門性モデル>

Kerr, A. et al. (1998) The new genetics and health: mobilizing lay expertise, PUS,. vol.7, 41-60

<専門知と地域知の統合>

Briggs, J. (2013) Indigenous knowledge: A false dawn for development theory and practice?, *Progress in Development Studies* 13, 3 pp. 231-243

O'Brein, L., Marzano, M. and White, R.M. (2013) 'Participatory interdisciplinarity': Towards the integration of disciplinary diversity with stakeholder engagement for new models of knowledge production, *Science and Public Policy* 40 (1): 51-61.

Hel, S. (2016) New science for global sustainability? The institutionalisation of knowledge co-production in Future Earth, *Environmental Science & Policy*, 61,165-175